

新春絵本 経済的自立のための 投資ってなに?

第1回

口上師：岡本和久
その図解人：大嶋賢洋

新しい年がきました。読者の皆さんの中にも、きっと新しいお仲間がいることでしょう。ならば、いま一度、長期投資のころを、第一歩からお話するのにもいい機会です。

私たちが、経済的自由を得るための投資について学ぶ上で、もっとも大切なことは「なぜ、いま投資をすることが、将来の備えにな

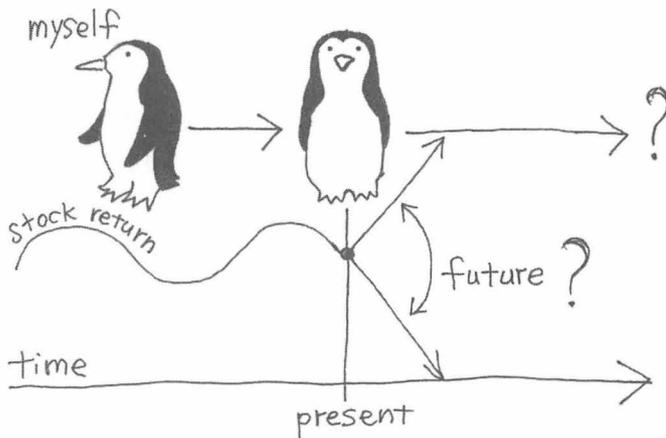
るのか」という点を理解することでしょう。

財産形成をする上で重要な役割を果たすのが株式投資です。私た

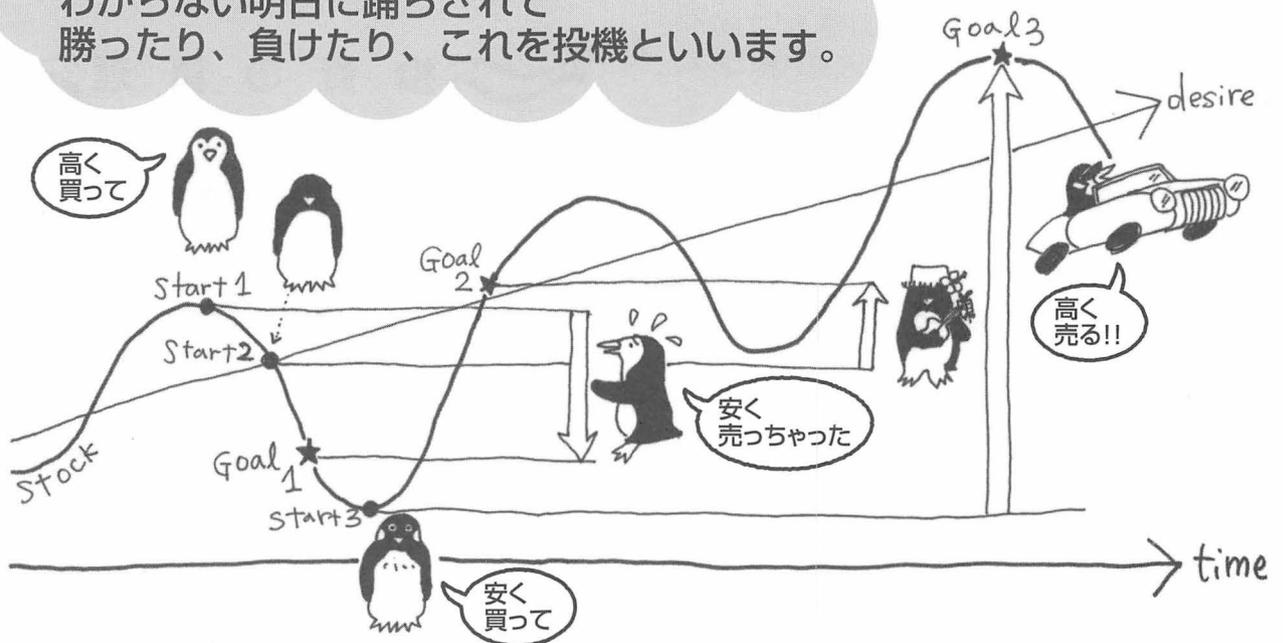
ちはこの投資収益によって将来に備えようというわけです。

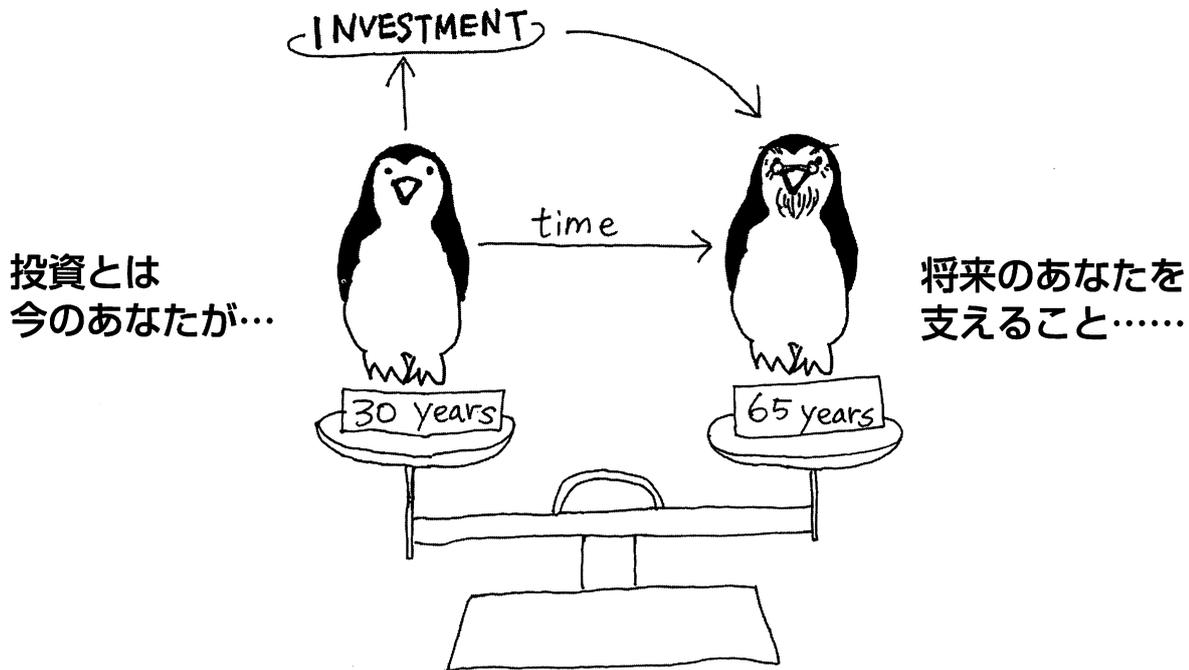
では、どうやったら儲かるのか。答えは単純で、安い時に買って、高い時に売る。とても単純です。ところがこの単純なことが実はなかなか難しい。

まず、今日の株価は高いのか、安いのか分からない。昨日より今日が高いか安いかは分かる。しかし、明日の株価は今日の時点ではまだ分からない。だから明日の株価と比べて、今、売買するのが良いのか、悪いのか誰にも分からない。明日は誰にもわからない。



明日は誰にもわからない……
わからない明日に踊らされて
勝ったり、負けたり、これを投機といいます。





投機と投資の違いとは

買った株が値上がりした。儲かった。でも、その先が難しい。今なら売ればハワイに行ける。でも、もうちょっと待てば、憧れのスポーツカーが買える。どうしよう。迷って、待って、その結果、株価は下落。虎の子の投資資金も減ってしまい、悲しき一日ワンコインの生活になってしまうかもしれない。このような目的で株式を売買していると分からないことだらけ。「当たるかはするるか」の世界なのです。

これを「投機」といいます。あるいは「博打」と言ってもいいかもしれませんが。競馬、競輪、パチンコ、マージャン、宝くじなどと似た次元の話です。それらにも「必勝法」と呼ばれるものはあるの

でしょう。しかし、それで経済的自由を得るための財産形成は難しい。なぜなら、失敗した時のリスクが大きすぎるからです。

では「投資」と「投機」の違いはなんだろう。これには明確な定義はないけれど、強いていえば、自らコントロールできる要素が多ければそれは投資。自らコントロールできないことに賭けるのが投機、ということが出来るのではないのでしょうか。

投資って、今のあなたが、将来のあなたを支えること

そこで経済的自立のための「投資」です。

それはつまり、30歳の人ならあと30~40年後、40歳の人でもあと20~30年後に使うお金を、今から準備するための投資です。

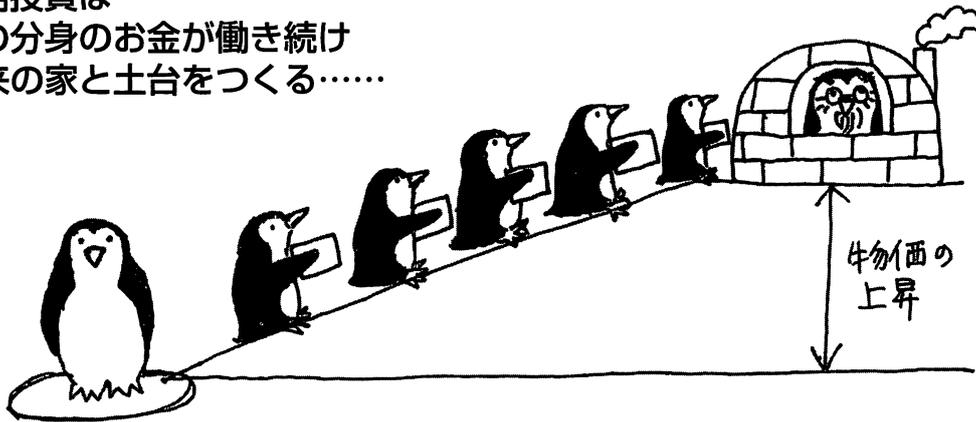
言葉を変えると、経済的自立のための投資とは、今のあなたが、将来のあなたを支える行為ともいえます。

では、そのために、私たちはなにをするのでしょうか。例えば、30歳のあなたが、素敵なレストランでの食事を我慢して、1万円を金庫に貯金したとします。そして、40年後に、この1万円を持って同じレストランに行くと、あなたは我慢した時と同じ食事を楽しめるのでしょうか。それはたぶん無理です。これまでの経済の動きから考えても、普通、物価は上がってしまうからです。

投資って、将来の購買力を維持するためのもの

しかも、老後に出費するのはレストランだけではなく。も

長期投資は 私の分身のお金が働き続け 未来の家と土台をつくる……



し、1万円ではなくて100万円だったらどうでしょうか。生活全体を支える支出です。ですから、現在手元にあるお金の一部を何十年も先のために取っておく上で、どうしても達成したい目標は「少なくとも生活に必要とされる品々を、将来も買えるだけの金額に増やしておきたい」ということになります。これはちょっと難しい言葉で「購買力を維持する」ということです。

この購買力を維持するためには、単に現金を金庫に入れておいてもだめ。金庫の中の1万円は何10年たってもそのときの物価水準に関係なく1万円です。たしかに「元本を維持する」ことはできますが、現在と同じ「購買力を維持する」ためには有効ではありません。

もし、その期間に物価が倍になれば価値、つまり購買力は半分になってしまう。反対に物価が1割下落すれば現金の価値は1割増えたことになります。

これではあまりに物価まかせです。もう少し物価の変動に合わせて購買力を維持する方法があっ

ても良さそうなものです。

実はそのための手段が「投資」なのです。

株式と債券ってなに

みなさんのなかには、住宅ローンを抱えている人も多いことでしょう。その人たちは不動産価格が下落すると困ります。なぜなら、お金を借りてせっかくマンションを買ったのに、マンションの価格は下がっても、借金の額は減らないからです。

その一方で、お金を貸した人は喜んでいるはず。なぜなら、そのお金が返済されたときには、同じ程度のマンションが、より安く買えるからです。

ですから、モノの値段が下がっている時は、お金を人に貸している方が得です。反対にインフレの時はどうでしょうか。お金を借りてマンションを買ったと、マンション価格がどんどん上がります。しかし、借りたお金の額はそのまま。ですから、インフレ時には、おカネを借りてモノを持つことにメリ

ットがあるわけです。

投資の方法は、極言すれば、このように、「モノを持つ」か、お金を「貸し付けるか」の2つの方法を、物価の変動に合わせて選んでいくことともいえます。

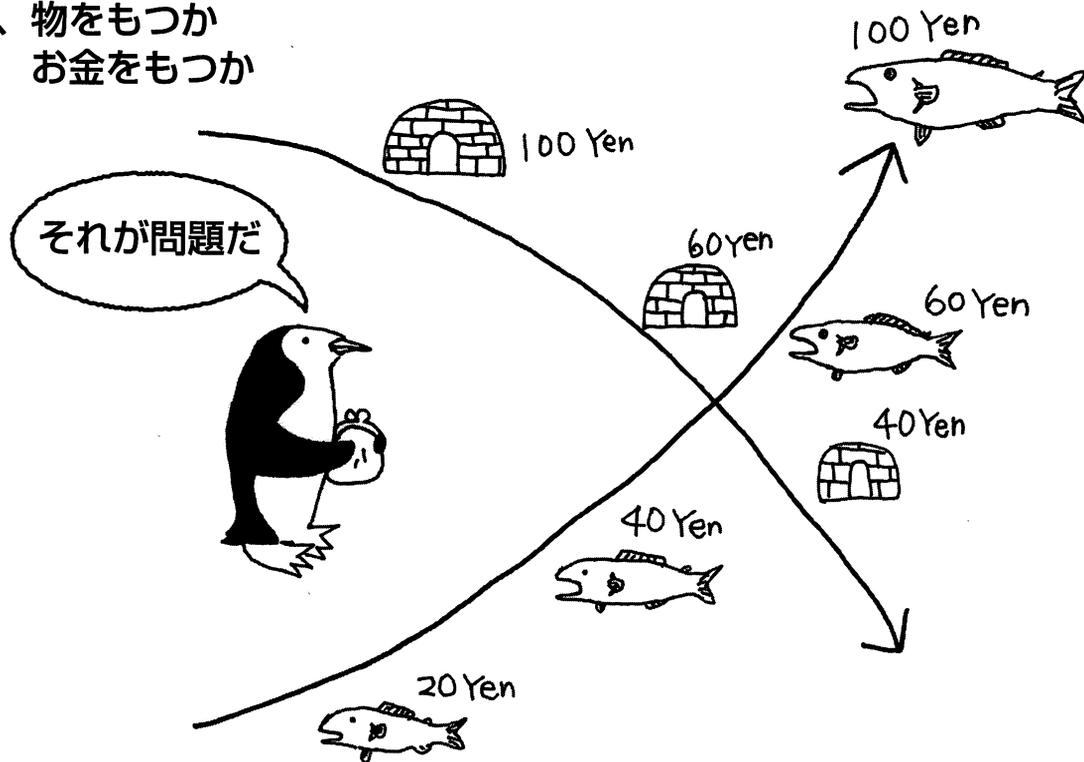
みんなが投資できる場所が 有価証券市場

ただ問題は、「モノを持つ」とか「貸し付けをする」といっても、私たちにとって、そう簡単にできることではないことです。たくさんのモノを持つためには、大きな倉庫を持つことが必要。また、お金を貸すといっても、信用できる人を探してお金を貸すのは簡単ではありません。

そこで、このようなことを、誰もができるように用意されているのが有価証券市場です。ここでは、大きく、株式と、債券が取引されています。

では、なぜ、株式や債券を持つことが「モノを持つ」とか「貸し付けをする」ということになるのでしょうか。

いま、物をもつか
お金をもつか



株式というのは企業の資産の所有権を表すものです。株式を持つということは、その企業の工場や、本社ビルや、金融資産やパテントなど、全ての資産の一部を保有している、ということです。

一方、債券はその企業の借入金です。ですから、債券を持つということはその企業にお金を貸していることと同じなのです。

企業は株主の資金と、借入金や債券で調達した資金を使って、資産を保有し、事業を行い収入を得ます。企業はその収入から、借入金や債券に金利を払い、残った利益から株主に配当を払っています。そのような利益が積み重なり企業は成長し、私たち投資家の利益も増えていきます。

みなさんも、企業のバランス・シート（貸借対照表）を見たことが

あると思います。そのバランス・シートは左右に分かれていますね。左側には企業が保有している資産が記載されています。企業はその資産を使って生産活動をしているわけです。

右側は上下に分かれていて、上は借入金や債券の状況が書かれていて、下には株主資本、つまりすべての株主が保有する資本額が書かれています。

ですから、私たちが株や債券に投資するということは、企業のバランス・シートの右側を保有しているということにほかならないのです。株式保有は下側への投資、債券は上側への投資です。

お金に働いてもらう

もし、将来にインフレが予想されるなら、株式を通じて会社の資

産を持っていた方が得です。もし、デフレなら債券を持って、会社におカネを貸した方が得です。これはマンションの例と同じです。

こうして私たちは、自分のお金を、ある企業の株や債券に投資することで、投資先の企業の一部を所有するか、貸し付けをするわけです。

企業は、その事業をします。これは、私たちのお金が働いていることでもあります。

「投資」とは、こうしてお金に働いてもらい、将来のために増やしていく行為です。お金はいくら働いても疲れることもなければ、歳をとることもありません。

30年、40年とお金に働いてもらい、その後の人生での経済的自立を手にするのが、長期投資というわけです。





株主になったら知っておこう 株式リターンの仕組みについて

口上師：岡本和久 その図解人：大嶋賢洋

ペンギン父さん、息子のペンギンラーメンに投資する

今月は株式のリターンの仕組みについて考えてみましょう。

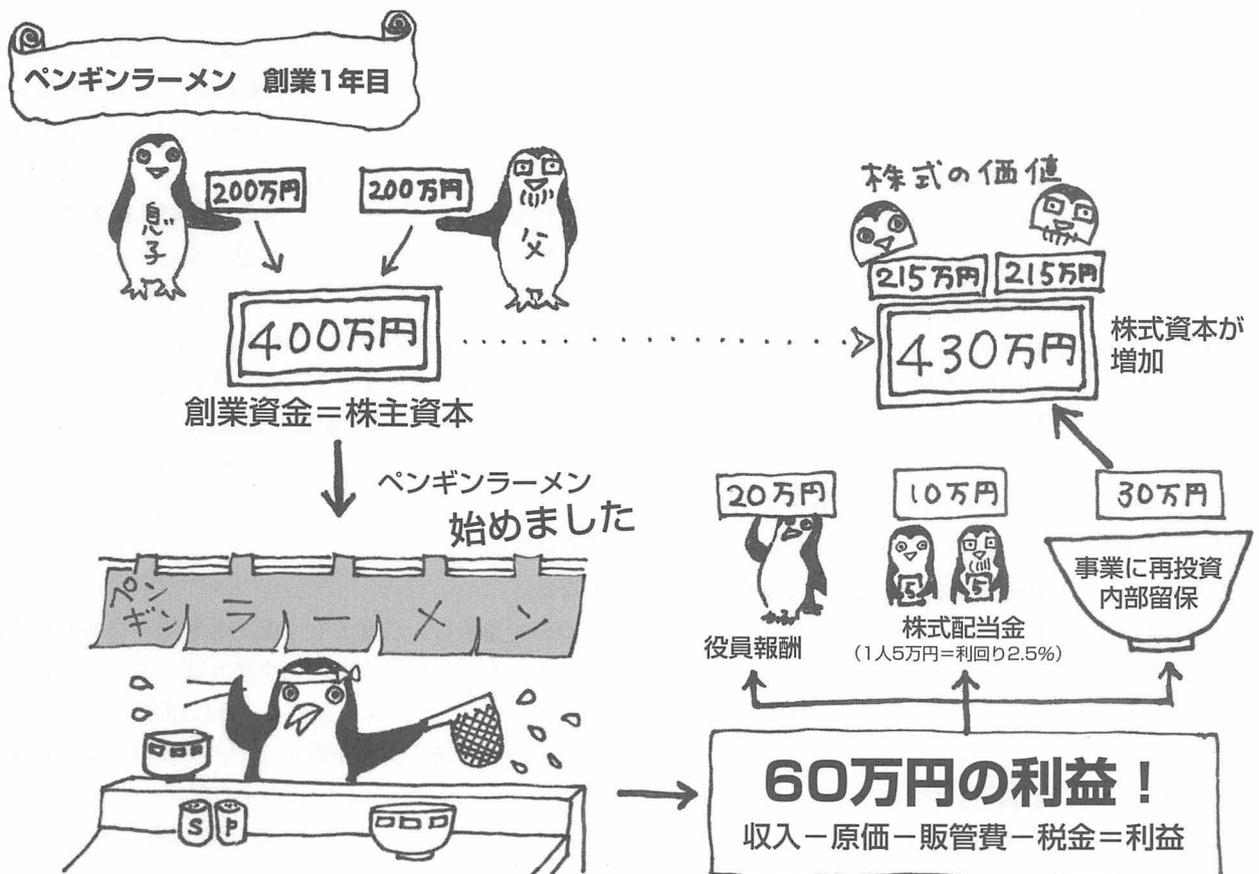
あなたの息子はペンギンラーメン株式会社の社長です。資本金400万円。スタッフは一人、つまり、社長であるあなたの息子一人だけ。彼は学生時代、有名ラーメン店でバイトをしていましたが、卒業後は就職口もなくフラフラしていたので心配していたのです。

それが昨年、突如、ラーメン屋さんをやるので200万円を出資してくれと言ってきたのです。半分の200万円は自分で出すと言います。あなたは老後資金のために貯蓄しておいた資金の一部を出資します。

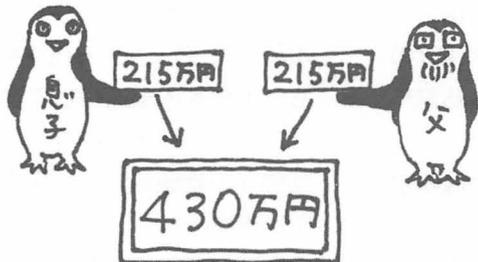
したがって資本は200万円×2で400万円となります。そして息子はこの400万円を元手にラーメン屋さんを始めたのです。

売り上げ好調のペンギンラーメン

やっぱり、持つべきものは良き友です。開店してすぐに、息子の友達がやっているラーメン・サイトに、非常に良いコメントを掲載してくれました。その結果、初年度は総額60万円儲かりました。これをあなたと息子の二人が株主総会を開き、結局、ちょっと甘いけど息子の報酬として20万円、10



ペンギンラーメン
創業2年目



創業資金 = 株主資本

ペンギンラーメン
創業3年目からの課題

70万円をどうするか
これが
ペンギンラーメンの
分かれ道



万円を配当金、そして残りの30万円を来年度の事業に再投資する(これを内部留保と言います)ことにしました。

その結果、株主資本は430万円になります。あなたはその半分を保有しているので200万円の投資額に対し5万円の配当(利回りは2.5%)をもらい、同時にあなたが投資した200万円の株式の価値は215万円に上昇しました。

このことから株式リターンの本質がわかります。つまり、あなたが出資したおカネは事業に用いられて、それが収益を生みます。それから原価や金利、税金などを引いた利益を役員報酬、配当金、内

部留保などに分割して処分します。この処分の仕方は株主総会で決定されます。

創業3年目からの経営の岐路

2年目の利益は100万円に倍増します。まさに順風満帆です。430万円の資本が100万円の利益を生み出したのです。収益率は何と23.3%($100 \div 430$)です。

息子がうるさいので報酬を30万円に増やしてやると、残りは70万円です。そこであなたは考えます。その70万円を、次年度からの事業資金として、どう処分するのが一番得だろうか。

ケース1として、70万円を配当

として、全額払い出したことにしましょう。すると配当はたくさんもらえますが、資本の額は430万円のままで。

来年も同じ収益率なら100万円の利益となります。したがって来年の配当金も同じだし、株主資本の価値も今年と変わらず同じです。

ケース2は、もし、配当金をゼロとして、全額を資本に追加する場合です。これならどうでしょうか。来年の資本の額は500万円($430 + 70$)となります。来年も今年と同じ23.3%の収益率を稼げれば、利益は116.5万円(500×0.233)となります。

したがって3年目の配当金や内

部留保の原資は大きくなることになります。

資本に対する収益率が高いほど、あなたは配当で資金を受け取るよりも、その資金を再投資してビジネスで稼いでもらった方が良いということになります。この収益率は「株主資本利益率*」と呼ばれ、財務分析でも最も大切な比率とされています。

ケース3は、この2つの間をとって、配当は20万円、内部留保は50万円とすることにします。その結果、株主資本は480万円(430+50)になります。結局ケース3でいくことが株主総会で決まり、

20万円の配当が支払われ、株主資本は480万円となりました。

ここでアナリスト氏が登場します。彼はペンギンラーメン(株)の分析をして、以下のような結論に達します。

「今後、5年間、この会社は株主資本利益率25%を維持できる。利益の3割は息子(社長)の報酬、2割は配当金、残りの5割を内部留保とすると想定する」。その結果、この会社の今後、5年間の利益成長は次のようになります。

この試算でいくと5年後、ペンギンラーメン(株)の利益は192.2万円となっています。この会社の

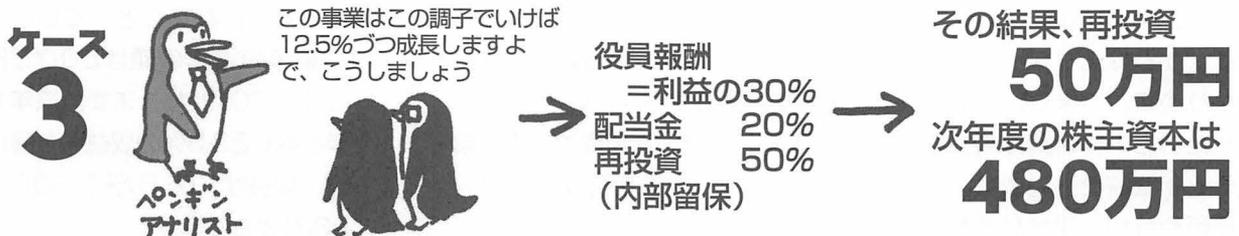
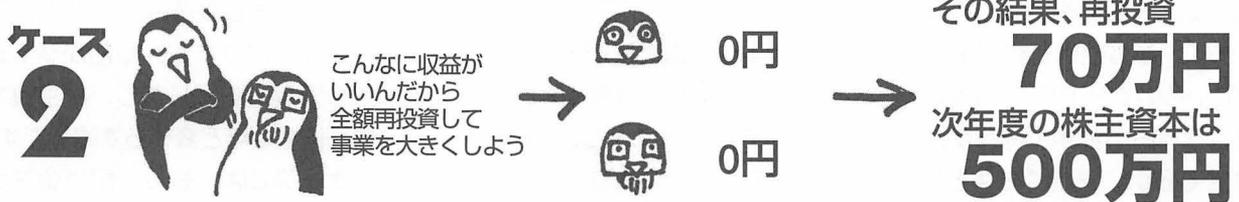
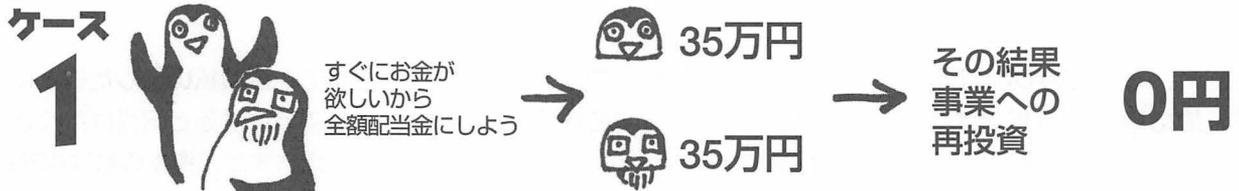
利益を見ると、毎年12.5%伸びているのがわかります(次頁【図1】)。

これはなぜかという、株主資本利益率25%が生み出す利益のうち、半分を内部留保しているからです。その結果、あなたの保有する株式の価値も同じ比率で増加しています。

同時にあなたは配当金を受け取っています。配当金も成長しているので、あなたの出資額の200万円と比較すると1年後で6%{(24.0÷2)÷200}、5年後では9.60%{(38.4÷2)÷200}になるのです。

株式の価値が12.5%で成長する

2年目：ペンギンラーメン経営の3つの分かれ道 株主である父にとって最善の道とは？



とともに、配当利回りも6%から9%を超えるまでに上昇していきます。この予測通りとなれば、かなりの良い投資だったことになり

ます。

株式を保有することは、 資本に出資するのと同じこと

さて、ここまでのラーメン屋さ

んのお話は架空の話ですが、株式会社というものと、株式へ出資するということの意味はわかっていただけだと思います。みなさんが株式を保有するということは、息子のラーメン屋さんに出資しているのと同じことなのです。

そして、配当金を受け取る一方で内部留保を行い、株主資本の価値を高めていきます。株式市場で株価が変動するのは、この配当金と株主価値が、将来どうなっていくかという憶測が反映されているのです。

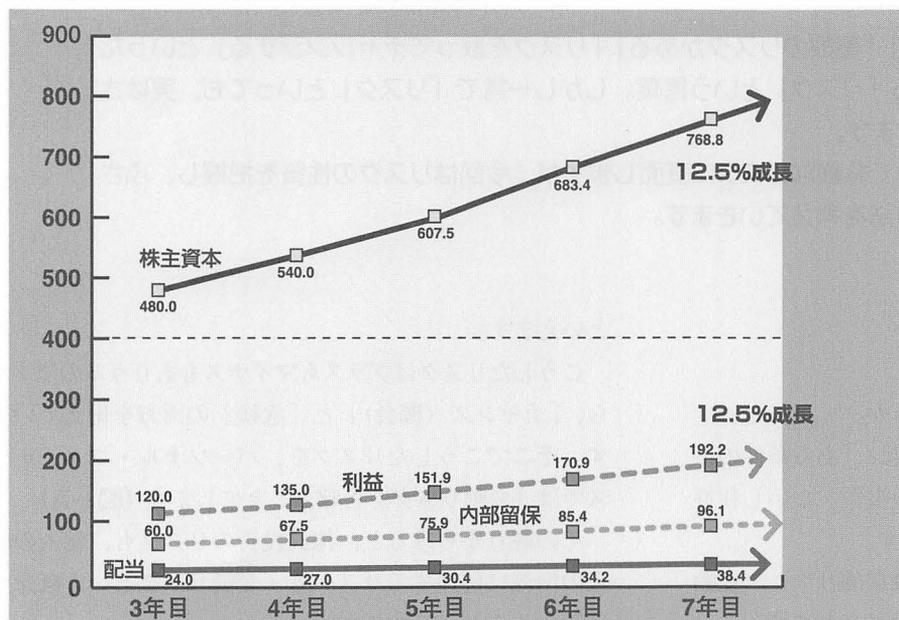
あなたが市場で、ある銘柄をある値段で買う。それは、その値段で株主資本を買っているということです。

例えば現在、株主資本500円に対して利益が100円も出ている会社があるとします。株主資本利益率が20%です。あなたはこの利益率が維持されるのであれば、株価が1000円であっても良いと思うかもしれません。

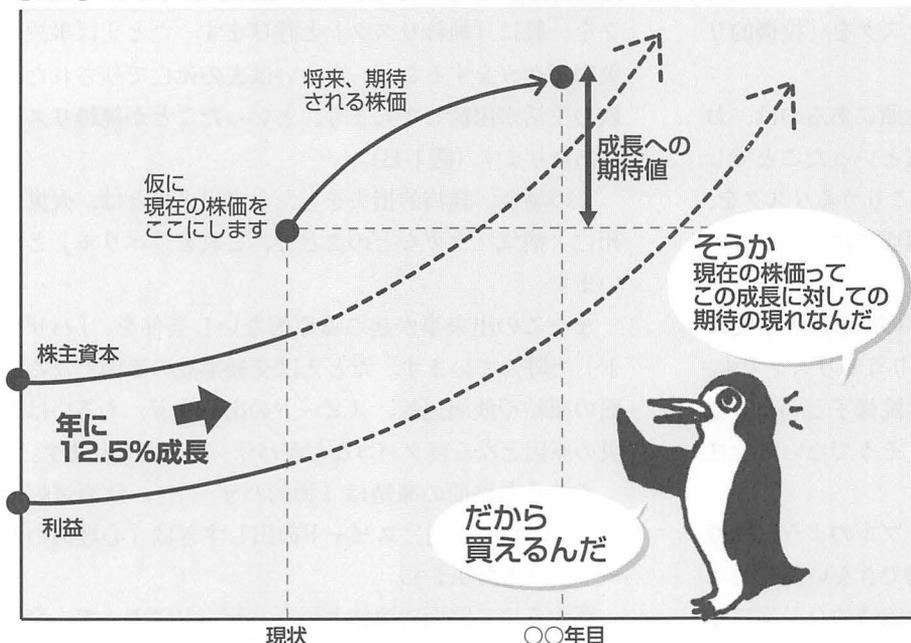
株価が現在600円であれば、この株式は割安ということになります。そこで、現在の株価が今期の利益の何倍まで買われているかという、株価収益率 (PER) という概念が大切になってくるのです。

これについてはまた、号を改めて説明しましょう。🎀

【図1】アナリスト氏による5年間の収益



【図2】もし、あなたがペンギンラーメンの株を買ったら……。



※株主資本利益率

株主資本利益率とは、自己資本(株主資本)を使って、どれだけ当期の利率が稼げるかを見る指標。当期利益÷自己資本(株主資本)という式で求められ、ROE (Return On Equity) とも呼ばれる

会社が成長するメカニズムと ROEの関係について知っておこう

口上師：岡本和久 その図解人：大嶋賢洋

株主資本とは何か?

先月号では、株式リターンがどのようなメカニズムで生まれてくるのかを、ペンギン・ラーメンの例を用いて解説しました。

つまり、あなたが保有する株式は投資先企業の株主資本の持ち分なのですが、会社はその株主資本を活用してビジネスをし、利益を出すわけです。そしてその利益の

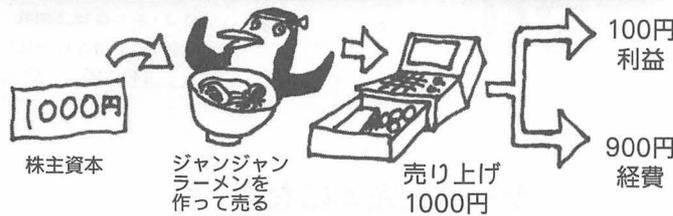
一部は役員報酬などになりますが、大部分は株主に配当金として支払われるか、あるいは内部留保して株主資本に加えられ、翌年の事業に用いられます。

上記の話から、企業の収益性を考える上で一番大切なのは、株主資本がいくら利益を生み出しているか、ということであることがわかんと思います。この比率を株主資本利益率、英語でReturn on

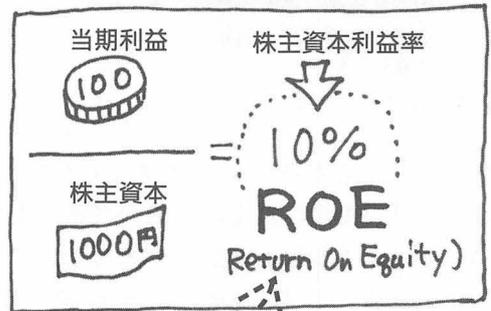
equity、あるいはそれを略してROEと呼びます。

仮に、株主資本が1000円の企業が100円の利益を出しているなら、10%がROEとなります。その100円のうち50円が配当として支払われれば、内部留保は残りの50円ですから、翌年の株主資本は1050円です。翌年のROEも10%であれば、利益は105円になります。こうして株主資本が成長して利益も成長

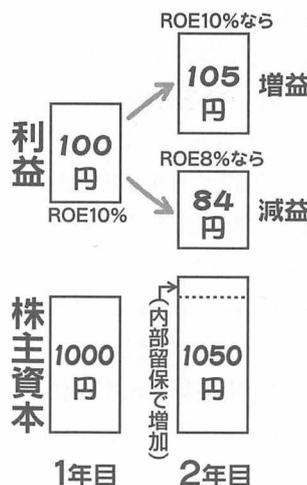
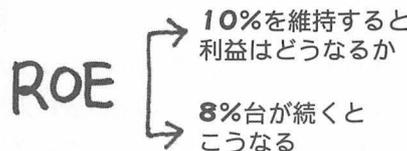
ペンギン父さんのためのおさらい 企業が利益を生む仕組み



この会社の将来性はここで見ろ



投資家=ペンギン父さんは
このROEの数字に注目



ROE8%だと株主資本は増えるのに利益が伸びないな~



してゆくのです。

ここで大切なことは、ROEが今後どうなるかということです。せっかく株主資本が1050円に増加しても、ROEが8%に下がってしまったら、翌年の利益は1050円×8%=84円、で84円に低下してしまうのです。株主資本は増加しているのに利益は100円から84円に減益です。

これでは株主は面白くありません。配当金も下がるかもしれないし、株主資本の価値の増加も減速してしまうからです。だからみんながROEを注目するのです。

“利益”とはいったい何だろう？

そこで利益とは何かをもう少し詳しくみてみましょう。

利益というのは、売上からすべての経費を引いた残りです。ですから、利益が増加していくためには売上が増加するか、経費が少なくなるか、その両方かが必要です。

売上のうち、どれくらい利益として残るかを売上高利益率、あるいはマージンと言います。つまり、リストラや経費節減、生産の効率化をするのは、このマージンを上げるためなのです。もちろんマージンを改善することは大切ですが、同時に売上を増やすことも非常に重要なのです。

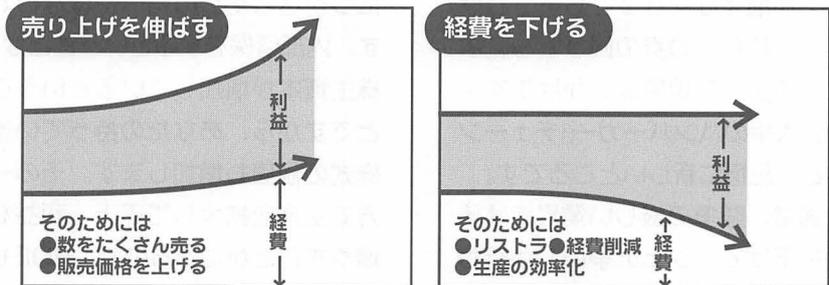
売上増加のための方法

売上を増加するためには2つの方法があります。1つはたくさんの数量を売ること。もう1つは値段を上げることです。

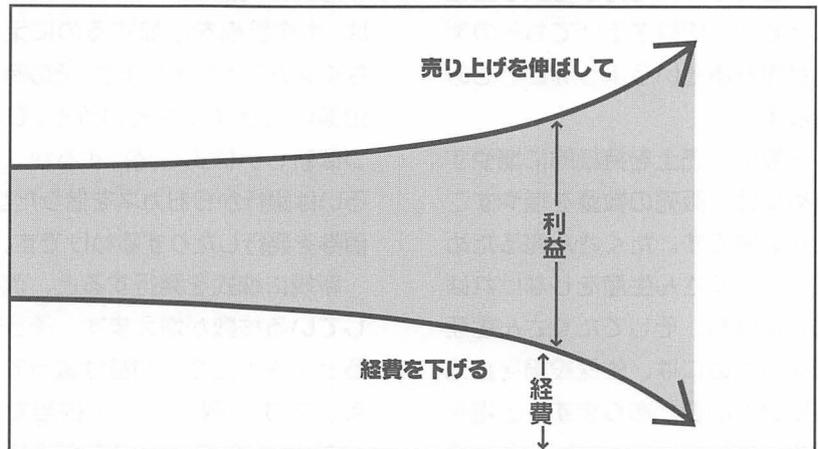
しかし、値段を上げると普通は

では利益を出すためにどうしようか

利益の構造って単純化すると2つしかない



企業はこの2つを目指す



う～ん
そのためには



現状の
内部留保では
資金が足りない!
新しい資金が
必要だ!!

たくさん数を売るのが難しくなります。一方、たくさん売りたいがために値段を下げても、売上が増えなくなってしまうわけです。私たちの身の回りでも、よくこのような現象は見かけますよね。大手のハンバーガー・チェーンなど、記憶に新しいところです。

通常、競争の厳しい業界では値段を下げて「シェア争い」が行われるのは、こういう訳です。反対に独占的な技術を持っている会社などでは、値段を上げてその製品が売れるというようなこともあります。

一般に、売上を持続的に増やすためには、販売の数量を増やすことが必要です。たくさん売るためには、たくさん生産をしなければなりません。そしてたくさん生産をするためには、生産設備を拡充していく必要があります。工場を増設しなければならないかもしれません。そのためにはおカネが必要

要になってきます。

そのおカネはどこからくるかというと、毎年の利益の一部を事業につぎ込むための内部留保なのです。内部留保をするということは、株主資本が増加しているということです。あなたの持っている株式の価値も増加します。その一方で生産を拡大して売上・利益を増やすことができるので、ROEも改善するのです。

時には内部留保のおカネだけでは、生産設備を増加するのに足りなくなることもあります。その時に企業はどうするかというと、ひとつは新しい株式を発行するか、あるいは銀行からおカネを借りたり、債券を発行したりするわけです。

新規に株式を発行すると、流通している株数が増えます。そうすると1株当たりの利益は減ってしまいます。例えば、1株当たり100円の利益なら、株数が1割増えると90.9円になってしまいます。

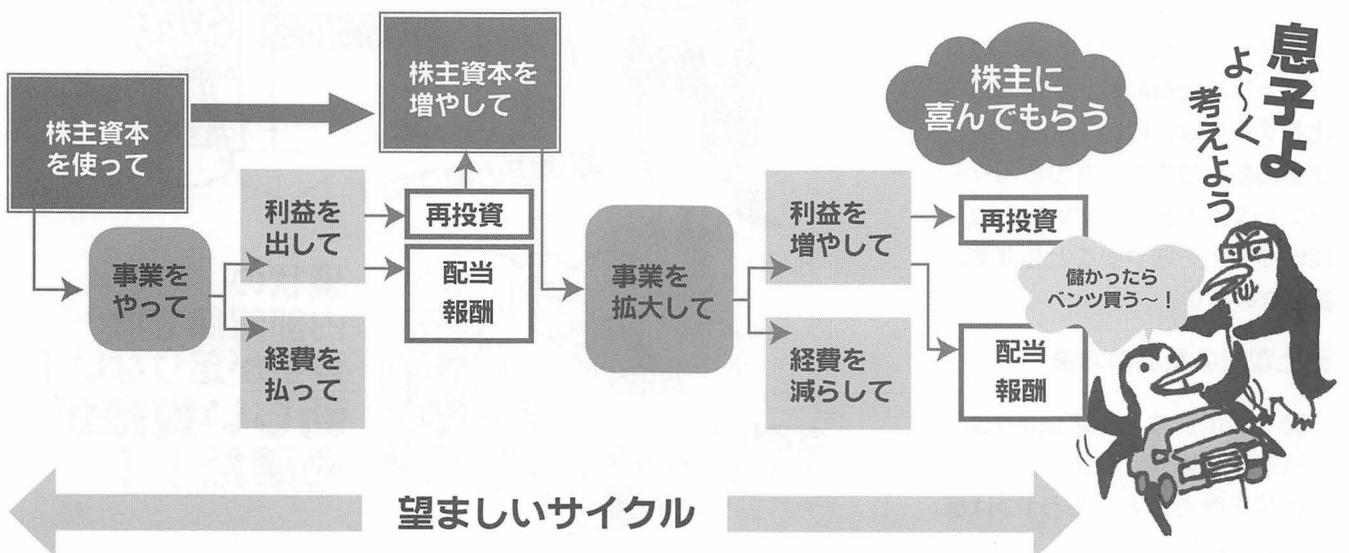
だからといって借入金や債券を発行すると、金利がかかるので経費が増加し、マージンが低下します。

重要なポイントはどちらの形態であれ、資金調達を行った場合には、その資金が資金調達に伴う株数や支払金利の増加を乗り越えて、きちんと利益の増加に結びつくように活用されるということなのです。

利益と経費の関係が企業経営を決める

大分、ややっこしい話になりましたが、企業経営というのはこのようにいろいろなトレードオフの関係を解決しながら、株主に配当を払い、株主資本の増殖を図っているのです。

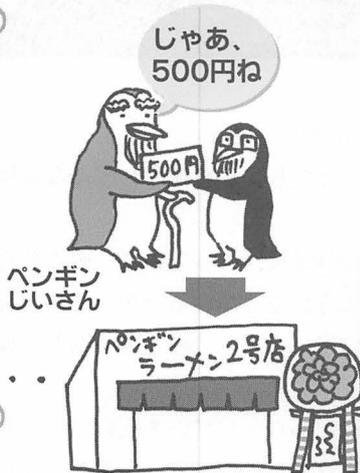
売上数量を増やすためには値段を下げなければならない。しかし、値段を下げすぎると売上の金額がちっとも増えない。また、うまく売上が増えたとしても、経費がもっと増えてしまったら元も子もな



新しい資金を得るためにどうしよう？

その1

新しく株式を発行する

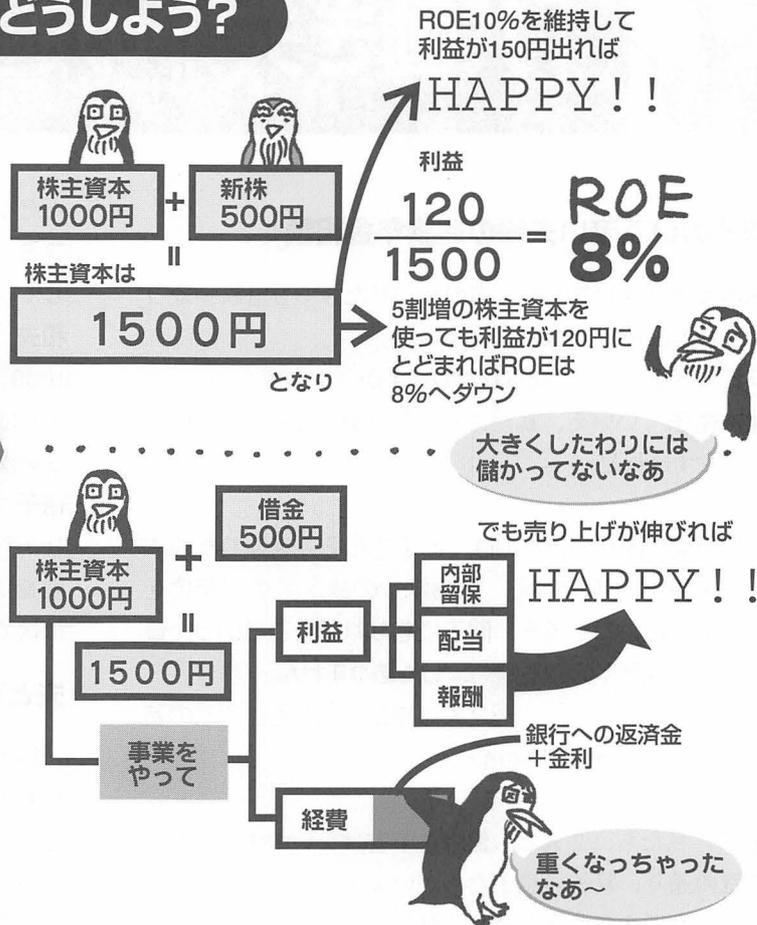


その2

銀行から借りる



この結果



い。しかも、売上数量を増やすためには、生産設備も大きくしなければならない。そうすると内部留保だけではおカネが足りない。増資をすると株数が増えてしまい、一株当たりの利益が薄まってしまう。おカネを借ると金利がかかる。「いったい、どうしたらいいんだ！」というのが企業の経営なのです。

株式の働き

あなたが持っている株式は、ここに述べたような働きを会社のなかでしているわけです。このメカニズムを理解すると、どのような

銘柄を持ったら良いかということのヒントにつながります。

一口で言えば、あなたが持っている「株主資本を有効に活用してくれている企業」であること、言い換えれば「ROEの高い企業」ということです。もう少し説明を付け足すと、次のような点が上げられると思います。

- ① 売上数量が増加している成長産業で大きなシェアを持つこと
- ② 独自の技術を持っていて価格競争力が強いこと
- ③ 無駄のない筋肉質の企業体質でマージンが高いこと

④ そして内部留保や新規の資金調達が増加に結びついていること

ざっとこんなところでしょうか。“証券アナリスト”と言われる人たちは、このようなことをもっと、もっと専門的に細かく分析している人たちなのです。

読者の皆さんは、ほとんどの方が証券アナリストではないと思います。

しかし、このような原理をきちんと理解されると、会社の収益についてや株式投資の意味がよくわかるようになります。

投資する会社の 価値評価の仕組みを知る

口上師：岡本和久 その図解人：大嶋賢洋

ペンギンラーメンの10年後

「光陰矢の如し」とはよく言ったものです。あれから10年が経ち、2015年の今日、ペンギンラーメンも大きな企業に成長しました。全国への店舗の展開も果たし、ついに南極マザーズへ上場!!

ここまで成長してきたのも株主から預かっているおカネを最大限、効率よく活用して利益を上げ、株主へのリターンを高めようとしてきたから、つまり、ROE（株主資本利益率）を重視した経営をしたからでしょう。

現在、ペンギンラーメンの1株当たり株主資本は1000円です。現在のマザーズでの株価は1500円。ROEは10%を維持しています。つまり、1000円の株主資本に対して100円の1株当たり利益が出ています。その100円の利益のうち2割の20円を配当へ、残りの8割を内部留保として将来の成長のための資金源にしています。つまり、内部留保率が80%ということです。

「トータル・リターン」って何？

会社を評価する指針に利益成長率があります。それは、「 $ROE \times \text{内部留保率} = \text{利益成長率}$ 」という方程式で算出します。

ペンギンラーメンの例でいうと $10 \times 0.8 = 8$ で8%が内部留保を原

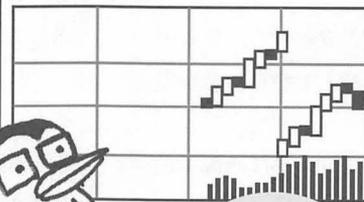


南極会社四季情報



株式会社ペンギンラーメン

.....
.....
.....
.....
.....



株価	1500円
配当	20%
内部留保	80%
1株当たりの株主資本	1000円
ROE	10%
利益成長率	8%



上場したけれど
息子の会社は
どう評価されて
いるんだろう。
心配だ。

資にして達成できる成長率であるということがいえます。投資家が1000円の株主資本に1500円の値段をつけているのは、この成長率を買っているということです。

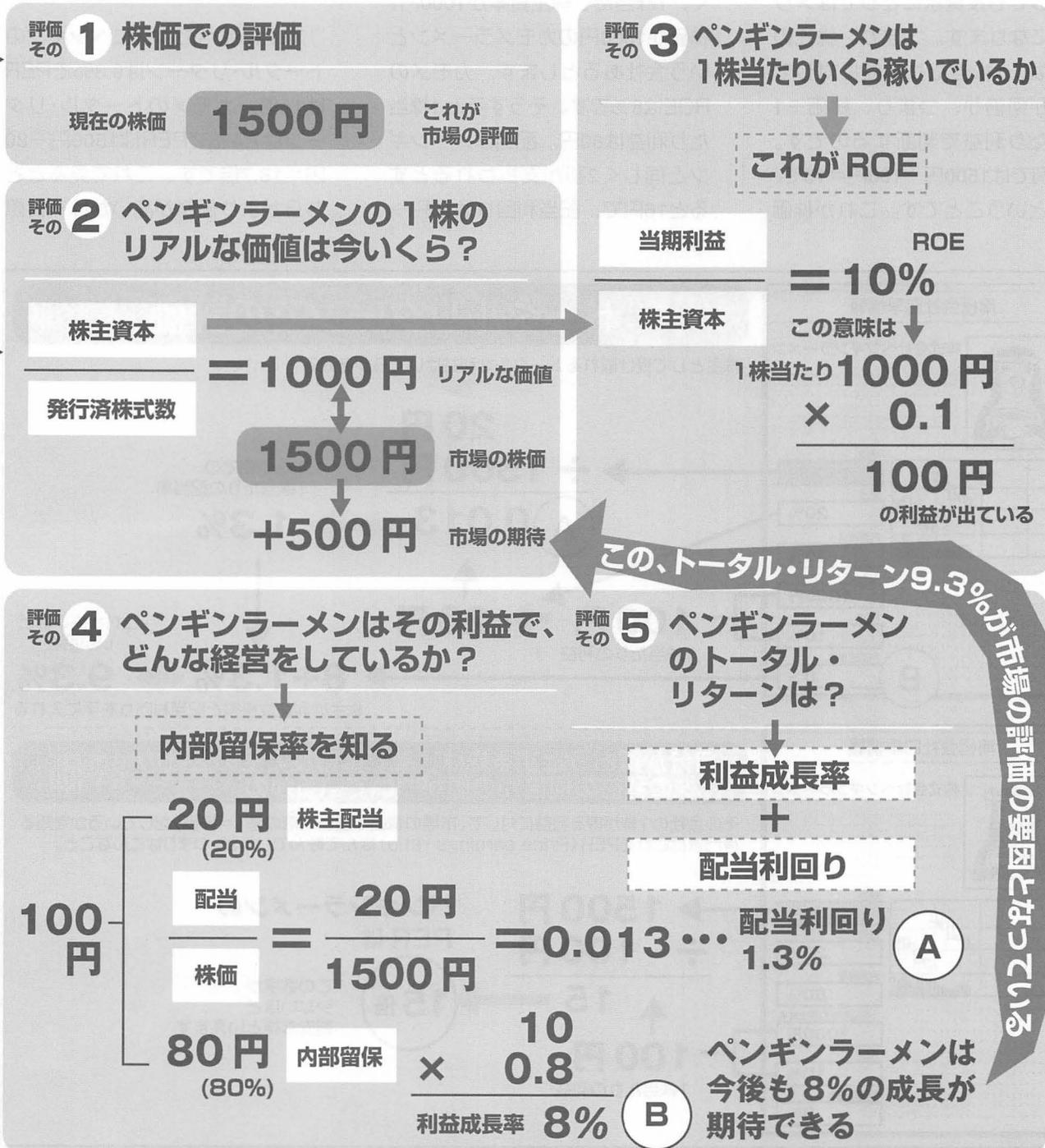
しかし、投資家が受け取るもの

はこの成長率だけではありません。

期中で1株当たり利益の2割に当たる20円を配当としてもらっています。1500円に対して20円の配当があるのですから、配当利回りは $20円 \div 1500円 = 0.013$ で1.3%とい

うこととなります。

結局、投資家が1500円を払って受け取るものは8%の利益成長と、1.3%の配当利回りということで、これらを合計した9.3%を「トータル・リターン」というのです。



トータル・リターンが高ければ PERも高くなる

投資家から見ると、1株当たり利益のうち配当になる分は配当利回りに、残りは内部留保されて将来の成長になるのですから、どちらにしても投資家にとってはメリットになります。つまり、株式の価値は、1株当たり利益に対して株価が何倍か、つまり、株価÷1株当たり利益で判断するのです。この例では1500円÷100円=15で、15倍ということです。これが株価

収益率、PER (Price earnings ratio) と呼ばれる指標です。

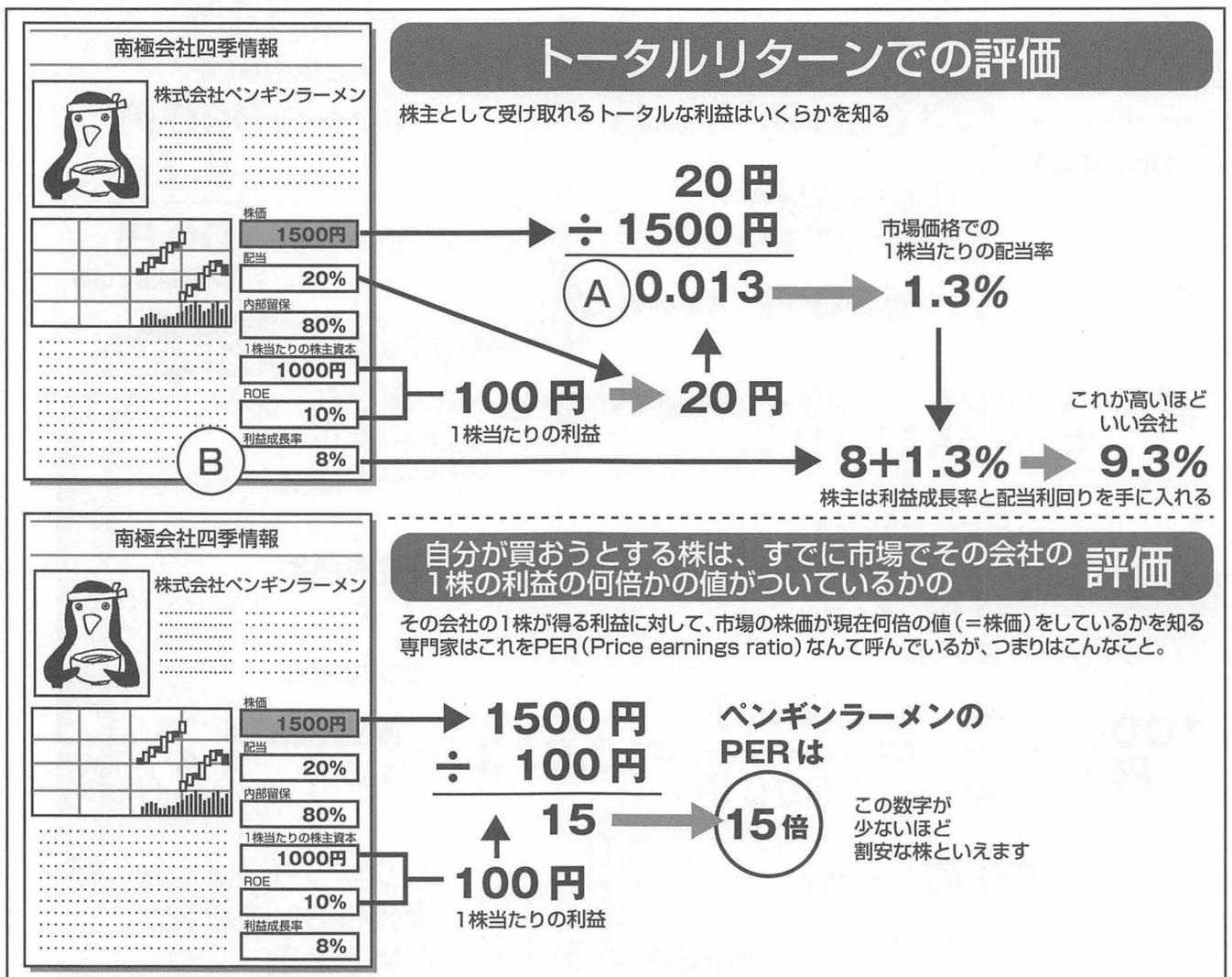
一般にトータル・リターンが高いほど、PERも高くてよいということになっています。

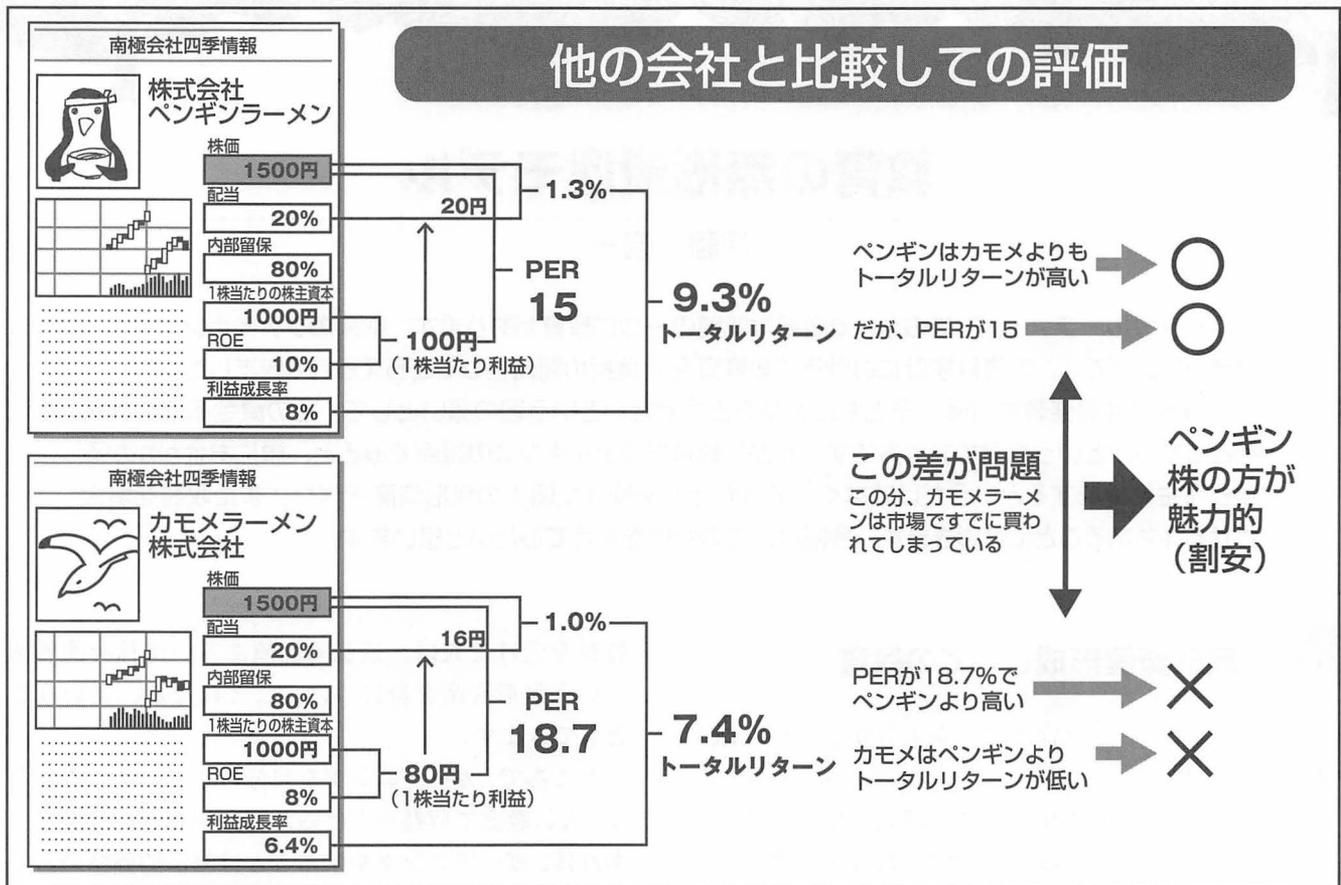
例えばペンギンラーメンと同じく、1株当たり株主資本が1000円、株価が1500円のカモメラーメンという会社あるとします。カモメのROEは8%です。そうすると1株当たり利益は80円。配当は、ペンギンと同じく2割が支払われるとすると16円で、配当利回りは16円÷

1500円=0.010で1.0%です。内部留保で可能な成長率は $8 \times 0.8 = 6.4$ で6.4%です。そうするとカモメのトータル・リターンは $6.4 + 1.0$ で7.4%です。

証券の価値評価

すでに述べたようにペンギンのトータル・リターンは9.3%でPERは15倍、カモメのトータル・リターンは7.4%でPERは1500円÷80円=18.7倍です。これで見るとどちらがより価値が高いかは一目瞭





然ですね。

ペンギンはトータル・リターンが高いのに、PERが割安なのです。このようにして証券の価値評価は行われるのです。

証券投資のおさらい

さて、これまで4回にわたってペンギンラーメンを例にとって証券投資を考えてきました。

第1回では株式投資の意味を考えてみました。投資の長期的な目的は購買力を維持することにあります。そのなかで株式投資はインフレ・ヘッジに有効な手段です。なぜなら、株を持つということは、その企業のオーナーになることだからです。もし、インフレになってその企業の生産している商品の

値段が上昇すれば、それを生産している設備の価値も上昇するはず。株主になるということは、その生産設備のオーナーになるということなのです。

それでは、株主になるとどのようなメカニズムでリターンが得られるのか、それを第2回で説明しました。ここで株主資本利益率、ROEという指標が紹介されました。そして株主資本が生み出す利益が配当になり、内部留保になって次期の成長につながることを説明しました。

さて、第3回ではROEをいろいろな要素に分解して検討をしました。売上の成長、経費の削減、そして業務拡大のための資金調達など、企業経営の難しさについて説

明をしました。それを理解すると、どのような企業が持続的に成長を可能にできるかがわかります。これが企業のファンダメンタル分析といわれるものです。

そして、今回の最終回ではバリュエーション分析について解説をしました。ファンダメンタル分析で判断した証券の価値を、現在の株価との対比で見てどのように判断すべきかを示しています。そして株価収益率、PERという概念を紹介しました。

これらのアプローチはとても正統的なものですが、実際にはもっと、もっと複雑な手法が使われます。いずれそれらについても紹介できればと思っていますが、今回はこれまでにしましょう。